

隠岐の高校生による地域プロジェクトサークル

WAIRA ACT



遊び（探究的な学び）で社会を沸かせ

社会のために動くのに「早すぎる」はない！

大学はなくても高校はこれだけある！互いの強みを持ちよって社会に一石を投じるプロジェクトを進めていこう。

アイデアで終わるのではなく、継続した販売等の目に見える成果をつくっていく。社会を沸かすプロジェクトは1年では終わらない。メンバーが変わっても、様々なプロジェクトをWAIRAを軸に推進していく。変わらずある、チャレンジの場が本サークルです。

ジオパーク推進機構であるメリット

学校では突き抜け切らない面を授業外でサポートできる。（例：アイデアで終わる、お金の扱い等）ジオパークのネットワークを使い、専門家や企業人とダイレクトにつながれる。隠岐ジオゲートウェイをはじめとした施設や先端技術・資料を活用し、活動の幅が広がる。

一時的な企画ではなく、コミュニティを

イメージはジオパーク推進機構が顧問のサークル。地域の青年会のように同じ年代が集まり、目標のため活動していく集団を学校外でつくる。そうすることで隠岐の高校生のチャレンジの場を担保する。学校の部活動に所属しながら地域のサークルにも所属するようなかたち。

これまでの交流事業



これからの地域サークル



サークル活動の流れ 活動年度2期目以降はPPM分析で戦略をたてながら実施



高校卒業以上の若者サークルへ接続

Project 1

拠点づくり

チームの一体感と高校生が主体的に活動を進められる環境を自分たちでアレンジしていく。

- ・島前・島後の拠点充実
- ・ユニフォーム
- ・連絡手段etc.



Project 2

アクションプランからテーマ・プロジェクト決め

UGGpのコンセプトと隠岐ジオパークのビジョンを理解する。

アクションプランをPPM分析しグループ分けしておく。トラブルメーカーか花形に該当するモノからテーマを設定。

2期目以降の追加事項

視察

島外研修（希望者）

長期休み等を活用し、プロジェクトの練り上げ、具体化のために島外の企業や団体への視察・意見交換等の実施。

視察

活動資金獲得とPR

プロジェクトの実現に向けて、クラウドファンディング等の実施。成果物、サークルのPR（販売・流通・プレスリリースetc.）。

導入

オリエンテーション

希望者のアイスブレイクとサークルの方針の理解。サークルをサポートしてくれる大人たちと知り合う。

視察

島後・島前研修

高校生が実際に見に行っアイデアをみつける。全体が集まる活動の内1回は現地調査の機会を設ける。

発表

成果発表会

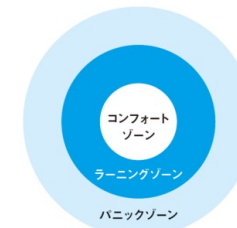
数年計画のプロジェクトだが、1年ごとに成果発表会を実施。または、ジオパーク全国大会等に参加し周知していく。

地域サークルが求められる背景

人が成長するラーニングゾーンを増やす

高校教育での「探究的な学び」の高まりは年々増している。そのための学習環境を働き方改革と両立しながらどう整えるかが課題。探究的な学びのために生徒が飛び込んでいく場（ラーニングゾーン）の選択肢を増やしていく。

■ ラーニングゾーンを広げて成長していく



コンフォートゾーンを飛び出してラーニングゾーンにいる機会を増やし、さらにはラーニングゾーンを広げていくと、人や組織は成長できる(図は筆者作成)

ラーニングゾーンに飛び込み、自分を知り、経験を積んでいく。その先に自分の意思で社会に関わっていくことにシフトしていく。



地域コミュニティの接続と連帯

学校以外でのコミュニティを創出し、島を離れる10代後半～20代の関係性を持続させる。

Project1

拠点づくり

サークルメンバー用のオリジナルグッズの作成など…
チームのとしての一体感を



色々なオリジナルグッズを考案中!!

例) Mont-bellとの連携
オリジナルロゴ入りウィンドブレーカーや、オリジナルタオルなど

活動場所のアレンジ、メンバー間の連絡
活動をスムーズにする環境

高校生の活動サポート体制

ジオ推のスタッフと生徒が気軽に話せる環境を整える



サークルの活動を伝えるボードの設置
例) メンバー紹介

サークル看板の設置
例) WAIRA ACTの島後拠点
WAIRA ACTの島前拠点

- サークルメンバーパス兼名札
- 隠岐自然観の減免、サークル拠点の利用
- LINEグループの作成
- ジオ推スタッフの動きがわかるカレンダー共有



ジオパーク推進機構のオフィスにサークルメンバーのブースをつくる。
作業に必要なモノ等が置いてある。
人数が増えたら研究室も使える。

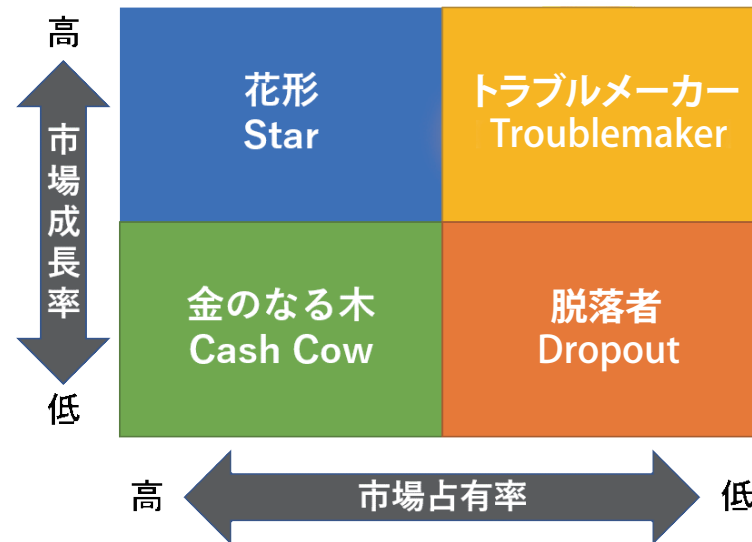
Project2

アクションプランからのテーマ決め

イメージボードの作成
ジオパークコンセプトの理解・ビジョンの共有



プロジェクト決め



アクションプランをPPM分析し、グループ分け。
チャレンジしたい分野を決めて、詳細なプロジェクトを決めていく。
(トラブルメーカーが花形が該当するものが妥当か?)

サークル顧問・サポーターネットワークの構築：
島内外の企業・団体・個人、専門性のある人たちを集めて生徒のプロジェクトの伴走を行う。

例) 隠岐高校でのオンラインメンター (病院マーケティングサミットJAPAN)

